

じんけん  
くらしの扉

淡路市人教：No.58

手作り人形劇をとおして

金口保育所 所長 中川 範子

子どもたちが、友達と一緒に感動し共感できるものを「見せたい」との思いから、東浦地区では40年前から「豊かな感性や情操を育む仲間づくり」を基本姿勢に、保育士による手作り人形劇を毎年行ってきました。

絵本等の物語をもとに、今、子どもたちに何を伝えたいかを保育士間で意見交換し、脚本から演出、人形の製作まですべて保育士による手作りの人形劇です。

人形劇の上演では人形とのやり取りを楽しみ、いけないことに対しては「ダメやで」の声が飛び出します。人形の一挙手一投足に笑ったり、ハラハラしたり応援したりと、見ている子どもたちの表情がコロコロ変わり、目が輝いています。

手作り人形劇は保育の中の一部ですが、この体験で子どもたちの情操が育まれ、社会性が芽生え仲間との繋がりが広がることを願っています。保育士自らも上演を楽しみ、子どもたちの笑顔という最高のご褒美に支えられながら、思いが届くよう実践を続けています。

幼児期は人としての根っこの部分といわれています。「根っこを養えば木は育つ」の言葉どおり自尊感情を育み、お互いの存在を認めあいながら、思いやりの心が浸透していくよう、子ども一人ひとりを大切にする保育を進めることが大切だと思っています。時代とともに保育ニーズも変わっていますが、手作り人形劇が子どもたちの生涯において小さなものかも知れませんが生きる力となってくれることを願っています。



第15回 淡路市人権を考える集い  
記念講演

今回は、秋田県藤里町社会福祉協議会会長の菊池まゆみさんをお迎えし、「ひきこもり等支援から見えた地域福祉の可能性」と題し、ご講演いただきました。

藤里町は、秋田県の北端に位置する人口約3,000人の町で、講演では菊池さんら社会福祉協議会及び地域の方々を中心とした取組により、100人以上あったひきこもり案件がゼロとなった事例が紹介されました。

菊池さんは、ひきこもり解消の取組を進める過程で、ひきこもり者は弱者ではなく、地域に貢献できる能力を持っているにもかかわらず苦しんでいるの方々であるとの認識を持つようになったこと。そして、自分の持つ能力を地域のために役立てたいというひきこもり者と地域の方々を繋ぐための活動をする事により、ひきこもり者ゼロが達成できたということを話されました。大変なご苦労をされながらも、そのことを感じさせない、菊池さんのやさしい口調が印象的でした。

